

病虫害発生予察 7月月報

7月の気象表(長野地方気象台)

官 署		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長 野	本年	23.8	26.0	25.5	134.0	64.5	91.0	62.5	72.6	36.3
	平年	22.5	23.4	25.2	47.2	57.2	30.1	48.4	46.0	74.4
松 本	本年	24.1	26.2	25.4	77.0	14.0	34.5	64.0	77.2	39.8
	平年	22.5	23.4	24.7	48.7	59.7	30.0	51.1	47.5	72.7
諏 訪	本年	23.6	25.2	24.5	77.5	4.0	53.0	62.3	71.2	42.4
	平年	21.7	22.5	23.9	70.8	83.6	37.0	48.5	46.5	70.9
軽井沢	本年	20.8	22.0	21.2	141.5	18.5	78.0	67.7	74.2	32.6
	平年	18.4	19.5	20.6	62.2	74.4	52.8	40.3	38.6	58.9
飯 田	本年	24.9	25.7	26.2	98.5	18.0	91.0	66.0	72.3	48.7
	平年	22.9	23.7	25.1	75.8	98.4	41.8	47.3	47.6	73.5

7月上旬の前半は梅雨前線や台風第3号の影響で雨の日が多くなりました。その後は中旬にかけて梅雨前線の影響を受けにくかったため晴れた日が多くなりましたが、下旬は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。また、午後は大気の状態が不安定となって局地的に大雨となった日もありました。

本州付近は暖かい空気が流れ込みやすかったため、月平均気温は高い所が多くなりました。月降水量は平年並か多い所が多く、月間日照時間は平年並の所が多くなりました。なお、気象庁から「関東甲信地方は7月19日ごろに梅雨明けしたと見られる」と発表がありました。

1 水 稲

(1) 生育概況

第1表 イネの生育状況(須坂市:農業試験場作物部)

品 種 名	区 分	移植後30日			移植後40日			幼穂 形成期	出穂期
		主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡		
あきたこまち	平年	8.6	35	448	10.1	54	624	7/ 7	7/27
	前年	9.1	35	475	10.2	48	602	7/ 5	7/27
	本年	8.2	31	325	9.6	44	532	7/ 9	7/30
コシヒカリ	平年	8.7	39	528	10.1	56	723	7/14	8/ 6
	前年	8.6	39	569	10.0	52	686	7/12	8/ 3
	本年	8.2	32	400	9.6	47	621	7/11	8/ 6

*移植期:平成29年5月19日

*平年:平成22~28年のうち収量の最多、最少を除く7中5年の平均値

第2表 イネの生育状況(原村:農業試験場原村試験地)

品 種 名	区 分	移植後40日			移植後50日			幼 穂 形成期	出穂期
		主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡		
ゆめしなの	平年	9.0	54	540	10.1	70	578	7/ 9	8/ 4
	前年	9.1	53	513	10.5	68	547	7/11	8/ 4
	本年	9.0	47	368	10.6	69	471	7/ 9	8/ 4

*移植期:平成29年5月25日

*平年:平成22~28年のうち収量の最多、最少を除く7中5年の平均値

(2) 病虫害の発生状況

1) いもち病

葉いもちは、7月上旬巡回調査では確認されなかったが、7月下旬巡回調査で東北信地方の一部地域で発生が確認された。

アメダスデータによる葉いもち感染好適条件の判定では、6月の感染好適条件の出現は平年より少ない傾向であったが、6月30日に広域で感染好適条件が出現した。また、7月の感染好適条件の出現は同様の傾向であったが、7月24~26日にかけて連続して広域で感染好適条件が出現がみられている。本年の7月下旬の発生は全般に平年に比べて少ない発生であった。

2) 紋 枯 病

7月下旬巡回調査では平年に比べ少ない発生であった。

3) 白葉枯病

7月下旬巡回調査では発生は確認されなかった。

4) ヒメトビウンカ

7月下旬巡回調査(ネット20回振)では、捕獲数は平年並み、捕獲(発生)地点は平年に比べやや多い傾向であった。

5) ツマグロヨコバイ

7月下旬巡回調査では平年に比べ少ない発生であった。

6) イネドロオイムシ

7月上旬巡回調査では、平年に比べて少ない発生であった。

7) セジロウンカ

7月下旬巡回調査では、平年に比べ少ない発生であった。

8) トビイロウンカ

7月の巡回調査では発生は確認されなかった。

9) イナゴ

7月下旬巡回調査では、全般には平年並~やや少ない発生であった。ただし、地域差がみられ、中信地方は平年に比べ多い発生であった。

10) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

千曲市における黄色粘着トラップを用いた予察調査によると、第1世代成虫の発生最盛期は7月第5半旬と平年並みであったが、7月の誘殺数は平年に比べて約23%であった。

第4表 イチモンジセセリ第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺消長（千曲市）

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6	8・1
平 年	0.3	2.5	12.2	23.2	31.7	31.7	18.1
本 年	0	0	3	4	13	3	4

*黄色粘着版1, 200cm² (20cm×20cm×3枚) 当たりの誘殺数。

平年は過去10年間(平成19年～28年)の平均。

11) カメムシ類

県下6地点に設置している予察灯調査（病害虫防除所）のうち5地点でアカヒゲホソミドリカスミカメの6月5半旬から7月1半旬の誘殺数が平年に比べて多く、7月上旬巡回調査のすくい取り調査における斑点米カメムシ類の捕獲数が全般に平年に比べてやや多かったことなどから、7月19日付けで病害虫発生予察注意報第1号（斑点米の原因となるカメムシ類）を発表し、防除の徹底を呼びかけた。

2 りんご

(1) 生育概況

第1表 りんごの果実肥大状況（須坂市：果樹試験場 単位：mm 比：平年比%）

調査日	つがる								ふじ							
	縦 径				横 径				縦 径				横 径			
	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年
7/1	48.8	98	49.9	54.2	54.7	96	56.7	62.8	42.0	94	44.6	49.4	47.5	94	50.7	59.3
7/15	58.6	99	59.3	62.6	68.3	100	68.3	72.5	51.1	97	52.7	57.2	58.3	96	60.9	70.0
8/1	68.1	100	68.1	70.6	79.2	100	78.9	80.9	58.8	97	60.5	63.7	68.7	97	70.6	78.4

注) 平年は2002年～2015年の平均値。

(2) 病害虫の発生状況

1) 斑点落葉病

全般に「平年並」の発生であった。

2) 黒 星 病

北信地域を中心に発生がみられているが、発生量は「平年並」であった。

3) 褐 斑 病

巡回調査では発生は認められず、「平年並」の発生と推測された。

4) 黒 点 病

巡回調査では発生は認められず、「平年並」の発生と推測された。

5) 果実腐敗性病害

巡回調査までの発生は認められず、「平年並」の発生と推測された。

6) ハダニ類

巡回調査ほにおける発生程度は、ほ場による差が大きい傾向であるが、全般には「平年並～やや多」であった。

7) シンクイムシ類

巡回調査では、シンクイムシ類による果実被害が一部で認められた。

果樹試験場のフェロモントラップ調査では平年より多く誘殺されているが、各地のフェロモントラップ調査では、平年並の発生であり、発生時期、発生量とも「平年並」と推測された。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
本 年	41	11	3	13	5	12
平 年	8.3	1.9	1.0	2.9	2.4	5.1

注) 平年は過去10年の平均値。

8) リンゴコカクモンハマキ

巡回調査における被害新梢率は、ほぼ「平年並」であった。

第3表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
本 年	0	0	0	0	0	0
平 年	0.0	0.2	0.2	0.3	0.0	0.0

注) 平年は過去10年の平均値。

9) キンモンホソガ

巡回調査では、幼虫による寄生葉率は低かった。フェロモントラップ調査では、第2世代成虫の発生時期は「平年並」であった。発生量は、果樹試験場のフェロモントラップ調査では、ほぼ「平年並」であったが、各地のフェロモントラップでは、発生量が多い傾向で、全般的には「平年並～やや多」であった。

第4表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
本 年	11	20	65	363	198	78
平 年	100.3	109.4	161.5	145.9	104.2	121.6

注) 平年は過去10年の平均値

3 なし

(1) 生育概況

第1表 なしの果実肥大状況(高森町：南信農業試験場)(単位：mm)

品 種	区分	6月15日		7月1日		7月15日		8月1日	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
二十世紀	本年	30.8	27.6	37.6	32.7	45.9	39.6	60.6	51.1
	前年	33.9	33.2	41.5	39.2	52.5	47.8	67.7	59.7
	平年	32.2	30.7	38.3	35.5	47.1	43.0	62.2	55.2
幸 水	本年	31.1	25.7	39.2	31.7	49.0	39.6	66.7	52.9
	前年	39.6	34.1	49.7	41.7	65.0	52.3	84.0	67.9
	平年	32.5	27.8	40.6	33.8	51.1	41.8	69.6	56.4
豊 水	本年	31.4	28.5	38.3	34.5	47.0	41.9	61.4	53.8
	前年	39.1	36.2	47.9	43.6	59.8	52.5	77.5	66.6
	平年	33.3	31.3	40.3	37.1	49.1	44.6	65.2	57.6

平年値は1990～2010年のデータによる(幸水は長果枝と短果枝の平均)

(2) 病害虫の発生状況

1) 黒斑病

南信農業試験場の「二十世紀」殺菌剤無散布樹での発病は平年より少なく推移している。

第2表 果実の発病(南信農業試験場「二十世紀」殺菌剤無散布樹)

年	6月			7月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
本 年	0.0	0.0	1.0	2.0	7.0	31.0
前 年	0.0	0.0	11.0	21.0	84.0	90.0
平 年	1.3	2.6	12.5	42.1	76.7	88.0

平年は過去10年平均値

2) 黒星病

南信農業試験場の「二十世紀」殺菌剤無散布樹での発病は平年よりも少なく推移している。巡回調査ほでも葉や葉柄での発病が若干みられた。

第3表 果実の発病(南信農業試験場「幸水」殺菌剤無散布樹)

年	6月			7月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
本 年	24.5	47.0	56.5	69.0	75.5	83.5
前 年	62.7	79.3	78.5	90.8	94.5	91.2
平 年	38.1	42.5	53.4	66.5	80.4	87.9

平年は過去10年平均値

3) うどんこ病

巡回調査ほでの発生はほとんど認められなかった。

4) 輪紋病

巡回調査ほでの発生は認められなかった。

5) 枝幹性病害(胴枯病・枝枯病)

巡回調査ほでの発生は認められなかった。

6) リンゴコカクモンハマキ

巡回調査ほでの寄生は認められなかった。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長(高森町：南信農業試験場)

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
本年	0	0	0	0	0	0
前年	0	0	0	0.5	0	0
平年	0.1	0	0	0.2	0.7	0.4

平年は過去10年平均値

7) ナシヒメシクイ

巡回調査ほでの寄生は認められなかった。

第5表 ナシヒメシクイのフェロモントラップ誘殺消長(高森町：南信農業試験場)

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
本年	1	1.5	0	0	0	0
前年	0	1	1	0.5	1	2
平年	1.6	0.5	0.7	0.9	3	3.6

平年は過去10年平均値

8) モモシクイガ

巡回調査ほでの寄生は認められなかった。

第6表 モモシクイガのフェロモントラップ誘殺消長(高森町：南信農業試験場)

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
本年	0	0	0	0	0	0
前年	0	0	0	0	0	0
平年	0	0.3	0.2	0.2	0.3	0.4

平年は過去10年平均値

9) ハダニ類

巡回調査ほではナミハダニの寄生密度が高くなっている園地があった。

10) カメモシ類

南信農業試験場の集合フェロモントラップでのチャバネアカカメモシ誘殺数は平年よりも少なかった。

第7表 カメモシ類のフェロモントラップへの誘殺状況（南信農業試験場）

調査場所	種類	年	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
高森町	クサギ	本年	0	0	0	0	0	0
		前年	0	0	0	0	0	0
		平年	0.2	0.2	0.3	0	0	0
	チャバネ	本年	7	1	0	0	1	0
		前年	0	21	5	10	0	0
		平年	2.4	12.1	9.1	11.9	28.1	17.3

平年は過去10年平均値

4 もも

(1) 生育概況

第1表 ももの生育状況（須坂市：果樹試験場）

品 種	月 日	縦 径(mm)			横 径(mm)			側 径(mm)			指 数		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
白 鳳	7/6	52.4	66.2	51.4	52.3	64.9	51.0	49.9	64.0	47.9	26.8	42.8	25.5
	7/13	57.3	71.5	55.2	57.6	70.3	55.3	56.5	70.8	53.0	32.7	50.5	30.0
	7/20	63.6	75.4	60.2	64.3	75.5	60.8	64.9	77.9	59.8	41.2	58.1	36.6
	7/27	69.5	77.0	64.7	72.0	77.5	66.0	75.0	81.3	66.2	51.2	61.3	43.0
	8/3	72.7	-	67.4	76.5	-	69.6	80.9	-	70.5	57.3	-	47.5
川中島 白 桃	7/6	52.4	53.4	49.4	53.7	54.9	49.7	49.6	52.5	46.1	27.1	28.7	23.7
	7/13	55.1	56.5	51.6	56.6	57.6	52.4	53.5	56.4	49.4	30.4	32.2	26.4
	7/20	57.9	61.5	54.6	59.9	63.6	55.8	57.6	63.2	53.6	34.1	39.0	30.1
	7/27	62.5	66.5	58.5	65.5	69.3	60.5	64.5	69.9	59.2	40.7	46.3	35.3
	8/3	67.2	71.7	63.1	71.9	76.7	65.7	72.6	79.1	65.6	48.6	56.0	41.7
	8/10	-	73.4	67.7	-	79.9	71.5	-	83.4	72.5	-	60.1	49.1

平年値：白鳳(1981年～2014年の平均) 川中島白桃(1985年～2015年の平均)

注) 指数＝縦径×(横径＋側径)／2／100

(2) 病害虫の発生状況

1) せん孔細菌病

7月上旬の巡回調査から巡回調査まで、葉や果実に発病がみられたが、一般的には「平年並」の発生であった。

2) 灰 星 病

巡回調査までは一部ほ場に発生がみられたが、「平年並」の発生であると

推測された。

3) 黒 星 病

巡回調査までは発生がみられず、「平年並」の発生であると推測された。

4) ハ ダ ニ 類

巡回調査までは発生はほとんどみられず、「平年並」であると推測された。

5) モモハモグリガ

巡回調査までは発生がみられず、「平年並」であると推察された。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
本 年	9	35	27	94	46	10
平 年	284.1	532.9	822.0	345.5	179.0	216.3

注) 平年は過去10年の平均値。

6) ハマキムシ類

発生量はほぼ「平年並」であると推測された。

7) シンクイムシ類

巡回調査では、シンクイムシ類による果実被害は認められなかった。

8) アブラムシ類

発生量はほぼ「平年並」であると推測された。

5 ぶどう

(1) 生育概況

第1表 ぶどう（巨峰）の果実肥大状況（須坂市：果樹試験場）

月/日	横径(mm)			縦径(mm)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年
7/1	13.2	20.0	13.9	15.2	23.4	16.4
7/8	18.1	22.7	18.4	20.8	25.7	21.1
7/15	20.5	23.8	21.3	22.7	26.3	23.9
7/22	21.7	25.1	22.5	23.5	27.0	24.8
7/29	22.5	26.3	23.7	23.7	28.0	25.6
8/5	23.9	27.3	25.2	24.7	29.4	26.8

注) 平年値は、2006年～2016年の平均値。

(2) 病害虫の発生状況

1) 灰色かび病

巡回調査までの発生は認められず、「平年並」の発生であった。

2) ベ と 病

巡回調査ほの一部で発生がみられたが、「平年並」の発生であった。

3) 晩 腐 病

巡回調査までの発生は認められず、「平年並」の発生と推測された。

4) さび病

巡回調査ほでの発生は認められず、「平年並」の発生と推測された。

5) うどんこ病

巡回調査ほでの発生は認められず、「平年並」の発生と推測された。

6) 黒とう病

7月上旬ころから北信地域の「シャインマスカット」で、葉及び果実に発生がみられたことから、病害虫発生予察地区第1号を発表し防除を呼びかけた。発生は「平年並～やや多い」と推測された。

7) ブドウトラカミキリ

巡回調査ほでは発生が認められず、「平年並」の発生と推測された。

8) ブドウスカシバ

巡回調査ほでは発生が認められず、「平年並」の発生と推測された。

9) チャノキイロアザミウマ

7月下旬の巡回調査では、新梢先端葉での寄生は少なく、発生量は全般に「平年並」と推測された。

10) クビアカスカシバ

各地のフェロモントラップ調査より、誘殺数が例年と比べてやや多かったため、発生量は全般に「平年並～やや多」と推測された。

6 野菜・花き

(1) 病害虫の発生状況

1) きゅうりの病害

施設栽培（促成）では、南信地域の一部の巡回調査ほ場でべと病・灰色かび病の発生がみられ、北信地域の一部の巡回調査ほ場でうどんこ病・べと病の発生がみられた。露地栽培では東信地域の一部の巡回調査ほ場で斑点細菌病・べと病・炭疽病の発生がみられた。

2) トマトの病害

施設栽培（促成）では中南信地域の一部の巡回調査ほ場で灰色かび病の発生がみられ、露地栽培（ジュース用）では下旬に東信地域の一部の巡回調査ほ場で疫病、南信地域の一部の巡回調査ほ場で輪紋病がみられた。

3) レタスの病害

東信地域の一部の巡回調査ほ場で菌核病が、中南信地域の一部の巡回調査ほ場ですそ枯病・腐敗病・軟腐病がみられた。

4) はくさいの病害

東信及び南信地域の一部の巡回調査ほ場で、収穫期のものにピシウム腐敗病及び軟腐病がみられ、中信地域の一部の調査ほ場で、下旬調査において根くびれ病がみられた。中信地域の一部ほ場で収穫期のものに

5) キャベツの病害

中南信地域の一部の巡回調査ほ場で、べと病の発生がみられた。中信地域

の一部の巡回調査ほ場で、黒斑細菌病の発生がみられ、収穫期のもので軟腐病の発生がみられた。南信地域の一部ほ場で菌核病の発生がみられた。

6) アスパラガスの病害

巡回調査では目立った病害の発生はなかった。

7) ヨナガ（アブラナ科野菜）

巡回調査では、各地でヨナガ等チョウ目害虫による食害が目立った。

フェロモントラップへの誘殺数は、野菜花き試験場（塩尻市宗賀）では、昨年及び平年に比べて少なかった。野菜花き試験場佐久支場（小諸市山浦）では昨年に比べて少なかったが、平年に比べて多かった。

第1表 各地のフェロモントラップによるヨナガ成虫誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	15	4	10	16	16	6
小諸市山浦（同 佐久支場）	24	32	43	22	26	29
上田市菅平高原（地区発生予察ほ）	4	2	10	2	3	4
東筑摩郡朝日村（地区発生予察ほ）	3	0	0	0	1	
長野市上ケ屋（地区発生予察ほ）	26	12	12	22	15	18

8) オオタバコガ

巡回調査では南信地域の一部の巡回調査ほ場で、ジュース用トマト果実への食入被害が上旬調査からみられた。

フェロモントラップへの誘殺数は、野菜花き試験場（塩尻市宗賀）、野菜花き試験場佐久支場（小諸市山浦）とも昨年及び平年に比べて少なかった。

普及センターの調査では駒ヶ根市及び阿南町で7月第6半旬に誘殺数が急増している。

第2表 フェロモントラップによるオオタバコガ成虫誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	9	19	14	16	22	17
小諸市山浦（同 佐久支場）	0	5	12	15	4	25
豊丘村神稲（地区発生予察ほ）	21	7	9	17	29	23

9) ヨトウガ

フェロモントラップへの誘殺数は、昨年及び平年では7月後半に誘殺数が急増したが、本年はそのようなことはなく、全般に昨年及び平年に比べて少なかった。

第3表 フェロモントラップによるヨトウガ成虫誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	3	0	5	3	3	1

10) ハスモンヨトウ

野菜花き試験場（塩尻市宗賀）でのフェロモントラップ調査では、7月第2半旬に急増した。

第4表 フェロモントラップによるハスモンヨトウ成虫誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	0	59	45	44	31	18
上田市菅平（地区発生予察ほ）	7	5	4	8	9	8

11) アブラムシ類

巡回調査では南信及び北信のアスパラガス、南信の施設（促成）きゅうり・ジュース用トマト・スイカ・キャベツ、北信の露地きゅうりの一部ほ場で寄生がみられた。

第5表 黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	22	10	5	4	6	8
塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）	158	92	45	48	38	41
富士見町（地区発生予察ほ）	60	6	71	30	18	18
上田市（地区発生予察ほ）	2	2	3	3	2	5
長野市（地区発生予察ほ）	46	21	14	14	12	12

12) ハモグリバエ類

巡回調査では、南信地域のセルリー、中南信地域のねぎ（6月以降継続）の一部ほ場で、また調査ほではないが北信地域の施設栽培トマトで潜葉がみられた。

13) アザミウマ類

巡回調査では、中信及び南信地域のキャベツ・ネギ、南信地域の施設栽培（促成）キュウリ・露地（ジュース用）トマト・アスパラガス等で寄生がみられた。

第6表 青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）	104	41	224	354	882	306
富士見町（地区発生予察ほ）	71	14	53	35	35	35

14) ハダニ類

巡回調査では、南信地域の施設（抑制）きゅうり・アスパラガス（雨除け）・セルリー、中信地域のスイカ等の一部ほ場で寄生がみられた。